



414
A2262
1



今報大藏師清新任之甘省中事務
 清引徒有成有下當局之事務之概畧
 可差出音清下余之周，別丹設明生
 上皇仕也也
 明治十三年二月十日
 印刷局長得能良
 前大藏師大澤重信殿



大正十一年四月



印刷局之事

一 奏任官	三	人
一 判任官	四	拾六人
一 御用掛	貳	拾貳人
一 等外出仕	四	拾四人
一 御雇	三	拾四人
一 寫字生	拾	貳人
一 給仕	九	人
一 小使	拾	六人

明治十二年度

一定額常賞金五万五千五百八拾七圓

俸給給與旅費廳中費厩費編輯費紙幣
燒却費ナリ

大正十一年四月
大隈侯爵印寄

本局ノ儀ハ工場七部綜理ノ事務ヲ掌トル所ニシテ庶務計算調度ノ三掛ヲ置キ各其處務規程ヲ設ケ之ヲ分任セシム庶務掛ハ局中人員ノ進退賞罰及規則命令記録文書受付等ニ関スル一切ノ事務ヲ管掌シ計算掛ハ全局會計ノ基本頭末ヲ總括シ總理簿冊ヲ備ヘ定額常費及作業收支ノ豫算ヲ立テ、其首尾ヲ整理シ製造品種ノ價直損益ノ計算ヲ勘査シ併テ製品貯藏ノ倉庫出納ノ事務ヲ管掌シ日々ニ調度掛ノ報告ヲ集録シテ翌月ニ至リ各部ノ月報ト照査正算シ支出報告收入勘定帳ヲ調製シ及毎半季報告書ヲ調製ス又本省ニ上呈スルニ每三ヶ月ニ營業受拂正算報告書及作業收入勘定帳ヲ調製シ每一週年ニ作業費

損益比較表ヲ製ス調度掛ハ局中ノ資用ヲ調理節度シ工業ノ根軸トナリ工場七部ニ備フル所ノ機械什具ノ明細原簿ヲ備ヘ其存廢ヲ審査シ金錢出納ノ事ヲ專掌シ需用物品購買貯蓄交付ノ事ヲ辦理シ兼テ製品販賣ノ事ヲ負擔シ日々出納ヲ計算掛ニ報告シ又建築修繕ノ事務ヲ管掌シ又守警統轄ノ事ヲ擔任ス況ンヤ物品購買ノ事ノ如キハ一期購入スル所ノモノ之ヲ類別スレハ貳千種ニ余リ其價金六拾万圓ニ内外ス其品位ノ精粗價格ノ高低ハ即チ工場七部ノ製品代價ニ原因ヲ生スル所故ニ常ニ府下市中若クハ橫濱等ニ奔走シテ廣ク品種ノ所在ト價格ノ高低トヲ搜索探知シテ各般ノ購蒐ニ從事

盡カスル所ナリ而シテ三掛ノ外別ニ監工ヲ置キ工場人負ノ勤怠及規則ノ行否等工場一切ノ事務ヲ監督セシメ又製造事務掛ヲ置キ規程ヲ設ケ工場ト官民トノ間ニ介立シテ製造ノ注文ヲ周旋慶置セシメ又編輯掛ヲ置キ貨幣史及工場必須ノ事ヲ編纂セシム蓋シ工場ノ事務擴張繁劇ナルニ至リテハ本局人負モ自ラ増加シ定額常費モ随テ増額セサルヲ得ス以上本局官吏ノ管掌スル所ニシテ右人負ニ関スル費途ハ即チ前文ニ掲載スル所ノ定額常費ノ金額ヲ以テ支辨スルモノトス

工場之事

工場

此工場ハ紙幣公債證書等ヲ始其他各種ノ印刷物ヲ製造スル所ニシテ場中ヲ五區ニ分チ六版面彫刺及石版印刷寫真ノ事業ヲ掌トリ二ハ印色製造及製藥ノ事業ヲ掌トリ三ハ凸凹版印刷ノ事業ヲ掌トリ四ハ製品調査ノ事業ヲ掌トリ五ハ會計總理ノ事務ヲ掌トリ各部各防負責擔ノ事務アリ又豫備科ヲ設ケ本務ノ事業閑隙アル人負ヲ集合シ紙製ノ手細工等ノ事業ヲ授ケ以テ空手ノ徒ナカラシム

抄紙部

此工場ハ府下王子村ニアリテ紙幣公債證書等ニ供スル用紙ヲ抄造スル所ニシテ本務ノ傍

銅版石版ノ印刷用紙或ハ書籍用紙書翰封筒紙轉寫紙等ヲ製シ各科各防質負擔ノ事務アリ又豫備科ヲ設ケ擬草紙揉紙食卓掛拭巾代用紙皿敷紙等ヲ製シ内外國人ノ需ニ應スルノ事ヲ負擔スルモノトス

活版部

此工場ハ本局構内ニアリテ布告布達等ヲ印刷スル所ニシテ活字鑄造活版印刷製本等ノ事ヲ專掌シ未發ノ布告等ヲ印刷スルノ場所タルヲ以テ臨時ノ夜業ニ役事シ漏洩ヲ禁スルノ嚴約アリ

機械部

此工場モ亦本局構内ニアリテ諸機械ノ製作

及修補ノ事ヲ掌トル所ニシテ鑄造鍛冶軋轆組建仕上等ノ事業ヲ負擔シ防質ニ供スル機械ヲ製作スルノ事アルヲ以テ漏洩ヲ禁スルノ嚴約アリ

一 兩 雇	三百七拾九人
一 男 工	八百五拾五人
一 女 工	六百六拾六人
一 兩 雇 外國人	貳 人
一 學 場 兩 雇 以下	貳 拾 人
一 守 警	百 拾 四 人

一金拾八万圓

此金額ハ工業需用物品買上代ニ運轉使用

スルモノニシテ一期ノ収支ニ於テハ原額
ニ戻シ入レ差引精算スルヲ以半季報告ニ
之ヲ掲載セス此外別ニ工場營業資本ノ金
額ナシ

當工場ハ明治七年五月新築ノ事ヲ建議シ九年
十一月ニ至リ落成ス而シテ正院所轄ノ印書局
ヲ當局ニ屬セララル、ニ因リ活版部ト改稱シ續
テ本局即内ニ移シ又王子村ニ抄紙部ヲ創設シ
又本局即内ニ機械部ヲ設置ス抑當局ノ工場ハ
紙幣公債證書ノ如キ人民ニ對シ確信ヲ表示ス
ル品種製造ノ事業ヲ擔當スルニ始リ其他各種
製造ノ事業ニ連及スル所ナリ夫レ防贋ノ術々
ル一二ノ能ク盡ス所ニアラス鑄字製本機械製

作ノ如キニ至リテハ防贋ニ關係ナキモノ、如
シト雖全局一般ニ約ヲ嚴ニシ則テ明ニシ其目
途ヲ一ニシ畢生ノ腦力ヲ負擔ノ業ニ盡シ専心
一意ニ勉勵役事スルニアラサレハ防贋ノ術策
ヲ完全堅固ナラシムルヲ能ハス故ニ各終生奉
仕ノ誓約ヲ立工業ヲ専門ニ區劃シ其勤勞ヲ賞
慰シ其怠慢ヲ戒メ獨立自營ノ道ヲ以テ之ヲ誘
導獎勵シ業ヲ興シ事ヲ授ケ職制及成規ヲ制定
シテ各々部長ヲ置キ部中一切ノ事務ヲ統轄セ
シメ助役ヲ置キ部長ヲ補助セシメ主簿ヲ置キ
部中ノ整理會計ヲ掌トランメ技師技手技生ヲ
置キ專ラ技術上ノ事ヲ負擔センメ部中各工業
ニ因リテ之ヲ區劃シ各科室ニ分テ每科ニ科長

若クハ補ヲ置キ每室ニ室長若クハ補ヲ置キ科
室長心得書ヲ定メ一科一室ヲ擔任シテ事務ヲ
統轄管理セシメ又女工使役ノ場所ニ於テハ女
性ノ才能アルモノヲ撰ミ女工取締若クハ副取
締ヲ命ジ取締心得書ヲ定メ其負擔ノ女工ヲ統
轄セシメ各部一般男女職工ノ規則ヲ制定シ各
自本分ノ工業ニ從事セシム而シテ本局各工場
職工ハ三井銀行ノ保證ヲ以撰擧シ抄紙部職工
ハ早船弥三右工門外志名ノ保證ヲ以撰擧シ保
證料トシテ職工志人ニ付金ハ錢宛ヲ亦月保證
人ニ付與シ職工不正ノ所業アリテ放免スル時
ハ志人ニ付過怠金三圓ヲ保證人ニ科シ而シテ
勤績滿五ヶ年ニ及フモノハ其保證ヲ解キ工場

信任ノモノトス又技生以下男女職工ノ為ニ友
伍ノ規則ヲ設ケ技生職工ヲ論セス品行優等ノ
者ヲ撰ミ伍長トシ互ニ忠告ヲ以テ其善ヲ勸メ
其非ヲ責メ其榮譽ヲ保持セシムルモノトス而
シテ工場ニ從事スル者ハ諸機械運轉ノ間ニ進
退周旋シテ事ヲ執ルヲ以一般ニ洋服ヲ用エル
ノ制ヲ定メ日給志圓以下ノモノハ役服ヲ貸與
シ又各役事者獎勵ノ規則ヲ立擔任ノ事業ニ付
新ニ便利ヲ發明シ或ハ機械用具ニ付新ニ便利
ヲ發明シ或ハ工業超衆勳勵ニシテ進歩ノ効アリ
或ハ諸帳簿整備正確ニシテ事務運方宜敷或
ハ精巧ノ製品製造高超衆特絶或ハ皆勤勳勵等
ノ者ハ半季毎ニ取調之ヲ賞賜シ又過誤失錯ノ

少ナカラシムルヲ要シ懲戒ノ法ヲ設ケ過怠金追
徴例規ニ據リ其過失ノ輕重ニ應シ過怠金ヲ追
徴ス而シテ工業需用品ノ如キハ概子國産ヲ供
用シテ之ヲ精製シ専ラ舶來品ヲ仰クノ流弊ヲ
防キ機械物品ハ素ヨリ科室長ノ總轄スル所ナ
リト雖モ一トシテ管守者魚キモノナシ物品ノ
授受ニ於ケル必ス授付スル者ハ一人收受スル
者ハ二人トシ後日ノ徵證ヲ確明ニスルヲ嚴則
トス又不用ニ屬スル機械物品ハ五月十日ヲ期
トシ調度掛ニ返付シ同掛ニ於テハ不用物品ヲ
合集シテ各部長ヲ會シ再ヒ其用否ヲ審査シ部
長希望スル所アレハ同掛之カ媒介トナリ甲乙
賣買ノ措置ヲナシ然ル後全ク不用ニ屬スルモ

ノハ之ヲ入札拂ニシテ其代價ヲ收入ス而シテ
各部工業整理ノ方法ニ於テハ計算概則ヲ制定
シ都テ各人ノ手帳ヨリ起リ科室長ノ報告トナ
リ該科室出納正損ノ日締ニ登記シ整理部科
於テハ前頭各室ノ日締ヲ照查正算シ製造品ノ
日締需用品ノ日締製造現費ノ日締ヲ整理シ翌
日之ヲ諸元帳ニ登記シ翌月十日限營業請拂報
告製造品代價收入報告整備半製報告ノ月報ヲ
計算掛ニ出スル規則トス又医員ヲ置キ診察所
ヲ設ケ負傷急病者一時ノ治療ニ備ヘ重傷ノ如
キハ豫テ大學医学部附属病院ニ約定シテ治療
ヲ施サシムルモノトス又譯官ヲ置キ御座外國
人ノ通辭及翻譯ノ事ヲ掌トラシム守警ヲ置キ

職制及規程ヲ定メ諸紙幣其他製品局内ノ運搬
及晝夜ノ警備火災消防等ニ從事セシメ工場總
人負ノ戸籍簿ヲ備ヘ事實ノ有無ヲ調査シ門監
規則ヲ設ケ各門及各部出入口ノ取締ヲ兼務セ
シメ工場各員ノ給料百工ノ雇給ニ至ル迄孰レ
モ守警ノ記載スル所監工ノ檢印スル所ノ勤怠
録ニ據リ給與スルモノトス蓋シ當工場ノ業々
ル前文ニ掲クル如ク專ラ防贖ヲ要スル紙幣製
造彫刻製藥ノ如キ事業ニ始リ各種製造ノ事ニ
連及スルヲ以テ或ハ廣ク和漢洋ノ歴史ニ通曉
シ或ハ理化學ニ通曉スルモノアルニ非サレハ
達セス況ンヤ物ヲ製シ器ヲ造スルモノ學ニ因
リ其基礎ヲ確立シ其精神ヲ一ニシカラ此業ニ

專ラニセシメサレハ此責任ヲ負擔シ彼目的ヲ
達スルヲ能ハス是ニ於テ學場ヲ設ケ其規則ヲ
定メ幹事教員主簿ヲ置キ幼年技生ヲシテ專ラ
修學セシメ又男女幼年工ヲシテ工業ノ餘暇習
學裁縫ニ從事セシメ又伊國ニ留學生志名ヲ置
キ彫刻ノ為專ラ畫學ヲ修メシメ日本在留清國
公使館ニ技生志名ヲ委托シ專ラ支那學ヲ修メ
シム然リ而シテ其工業ニ從事スル所ノ者ハ其
責ムル所アリ其自ラ任スル所アリ以テ其志ヲ
專一ナラシムルニ非サレハ技術ノ熟達ヲ期ス
ルヲ能ハス故ニ曩者月給ヲ廢シ日給ニ改メ以
テ各員ヲシテ奮興勇進スル所アラシム然ルニ
執業ノ際過テ負傷シ又ハ藥毒ニ感染シテ病ニ

罹ルモノ、如キハ官厚ク扶助ノ恩賜アリト雖
獨リ工業篤志勉勵ノ輩不尠ニシテ疾病災厄等
ニ罹ルモ救助ヲ受クヘキ親戚等無之進退困難
ノ事實アルモノニ於テ補助センカ為ニ明治九
年五月良介私金ヲ投シ第一國立銀行へ預ケ子
母金増殖ノ方法ヲ立ツ是ニ於テ當局有志ノ輩
其舉ヲ善ミシ良介ノ微志ヲ助ケ投金スルモノ
月ニ日ニ増加シ其金額益滋殖ス然レ共職工ノ
如キハ投金ヲ許サス何トナレハ未タ他人ノ困
難ヲ顧慮スルノ地位ニアラス且一人ノ請願ヲ
嘉納スル時ハ衆工競争ノ弊ヲ生シ終ニ劫誘ノ
姿ニ陥ルヲ以テナリ是ニ於テ内規ヲ定メ水火
盜ノ難ニ罹ル者ヲ救恤シ或ハ孝義者ノ慰賞ニ

當テ或ハ死葬ノ祭案埋葬料等ニ支出セシモノ
既ニ少シトセス然ルニ愈増殖シテ目今貳千餘
圓ニ至レリ又工場従事者ノ為貯金銀行ノ主義ニ
基キ同年以來積金規則ヲ設ケ第一銀行へ預ケ
金ヲ約シ各自俸給ノ餘資ヲ投積シ檢束節約ノ
心ヲ生シ以テ前途ノ生計ヲ謀リ益工業従事ノ
志念ヲ厚カラシメントス其金額既ニ三萬圓ニ
過キタリ

